
参考資料 1

QGIS のインストールと基本操作

2026 年 4 月

国土交通省 都市局 都市環境課

公園緑地・景観課

目次

1. はじめに	1
2. QGIS とは	1
3. QGIS のインストール.....	1
4. QGIS の起動.....	5
5. QGIS プロジェクトの保存	6
6. プロジェクトの CRS（空間参照系）の設定	7
6.1 CRS とは	7
6.2 CRS の設定方法	7
7. 必要データのダウンロードと QGIS への読み込み	10
7.1 用途地域データの準備	10
7.2 JAXA 高解像度土地利用土地被覆図 データダウンロード	13
8. 用途地域ごとの緑被地の面積計算	16
8.1 使用する QGIS のツールボックスの準備	16
8.2 面積計算のための平面直角座標系への再投影	17
8.3 用途地域別の JAXA 土地被覆データの面積集計	26
8.4 EXCEL への出力.....	29

1. はじめに

本参考資料は、地方公共団体の実務者向けに作成された「緑被率の算定手法の手引き」を踏まえ、GIS¹（ジージーアイエス）ソフトをこれまで使用したことがない自治体職員が、無料ソフトである QGIS（キュージーアイエス／キュージス）を用いて「補正緑被率」の算定に必要な面積集計作業を一通り実施できることを目的として作成した操作マニュアルである。

操作はできるだけ画面の指示通りに進めれば再現できるよう構成しており、専門的な GIS 理論の詳細理解は必須ではない。

全般的な操作の留意事項としては以下が挙げられるため、操作時には注意すること。

①保存時にエラーが発生する可能性があるため、ファイル名およびフォルダ目に「全角スペースを使用しない」。

②ダイアログボックスの捜査の際に、マウススクロールを使用すると意図しないパラメータボックスのパラメータが選択・修正されてしまう場合があるため、マウススクロールを使用しないか、使用する場合は、選択が変更されていないか注意しておく必要がある。

2. QGIS とは

QGIS は無料で公開され、世界中で利用されている地理情報システム（GIS）ソフトである。GIS とは、地図（位置情報）と各種データを重ね合わせて管理・分析するための仕組みの総称であり、QGIS はその代表的なフリーソフトの一つである。

日本国内においても、国土数値情報ダウンロードサイト²にて「QGIS による国土数値情報活用マニュアル」が公開されるなど、自治体業務でも広く利用されている。

3. QGIS のインストール

以下では、Windows 環境を想定した QGIS のインストール手順を示す。

① インターネットブラウザを起動し、以下の URL にアクセスする。

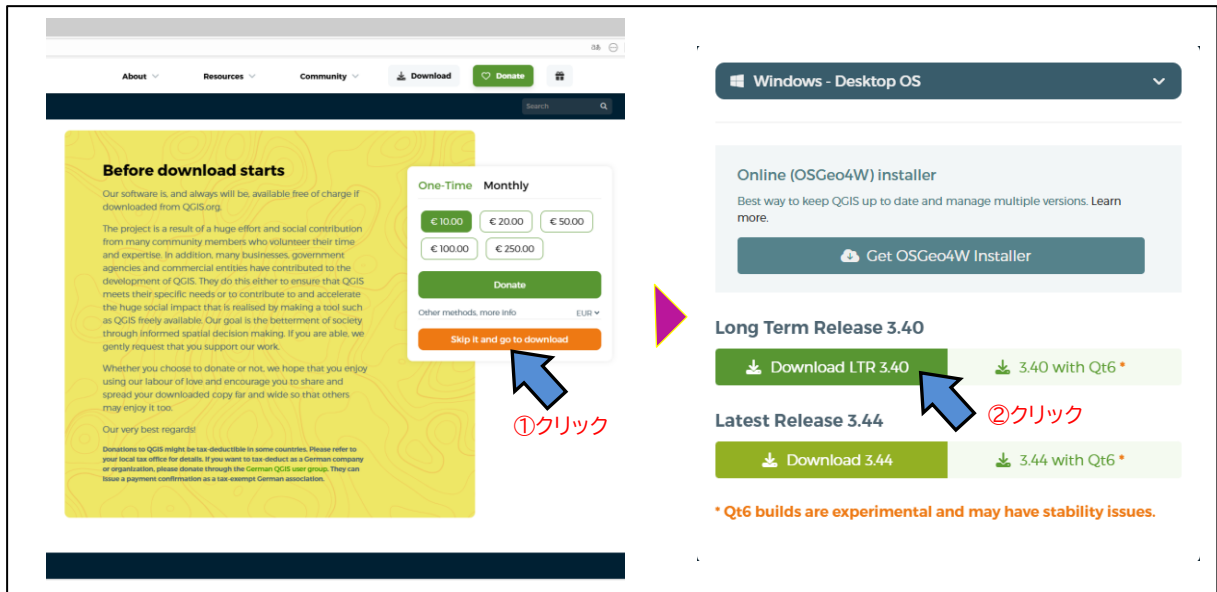
<https://qgis.org/ja/site/forusers/download.html>

※インストーラのファイルサイズは約 1.3GB あるため、通信環境によってはダウンロードに時間がかかり、15 分ほどかかる場合もある。

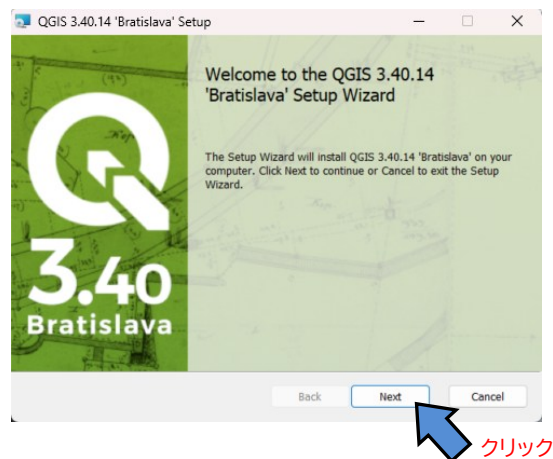
② ダウンロードページで「Skip it and go to download」をクリックし、「Long Term Release (LTR) 3.40」を選択して保存する。

¹ Geographic Information System

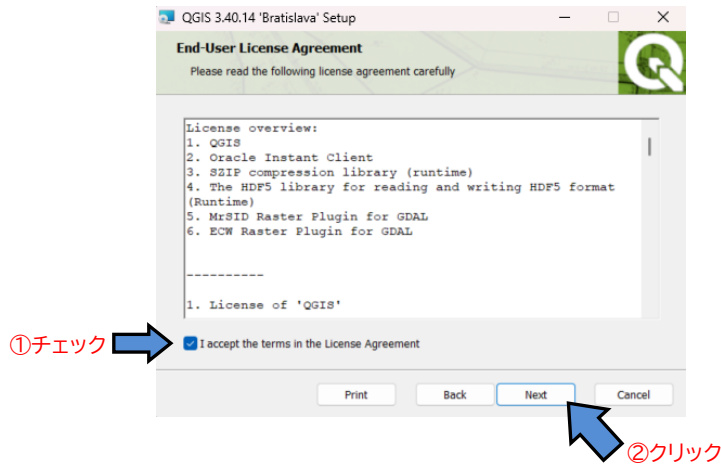
² <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/manual/manual.html>



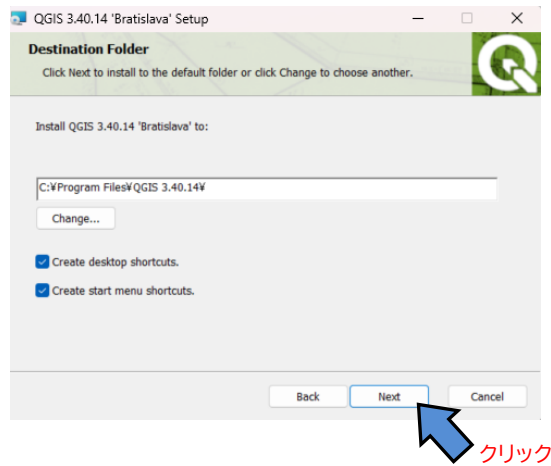
- ③ ダウンロードしたファイルをダブルクリックし、「次へ (N)」をクリックしてインストールを進める。



- ④ 「I accept the terms in the License agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックする。

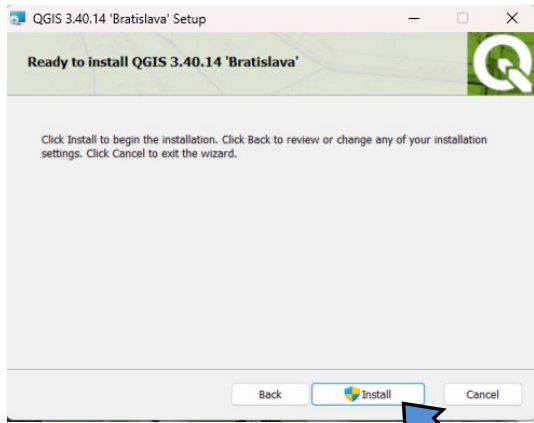


⑤以降は基本的にデフォルト設定のまま「Next」をクリックする。

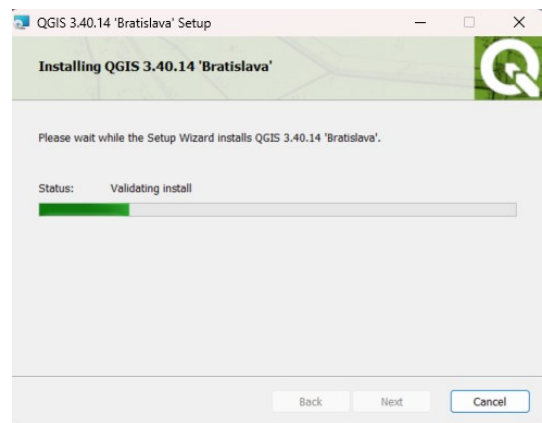


⑥ 「Install」をクリックするとインストールが開始される。完了後、「Finish」をクリックして終了する。

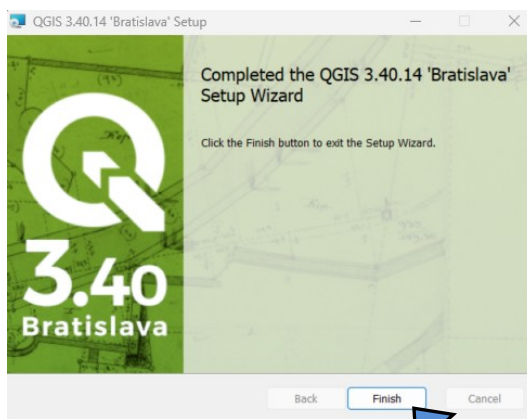
※インストールは数分～20分程度かかる場合がある。



①クリック

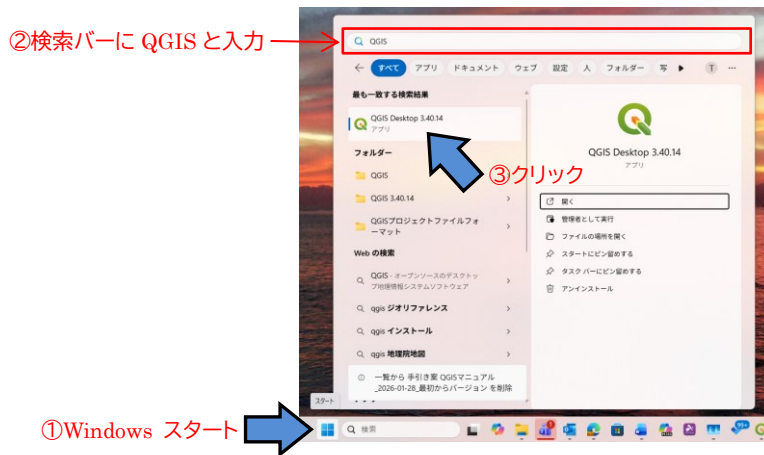


②クリック



4. QGIS の起動

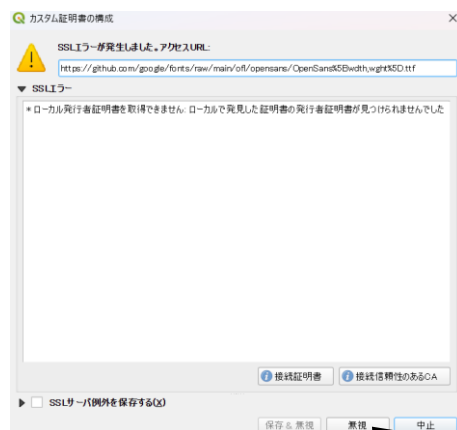
- ① Windows のスタートメニューを開き、検索バーに「QGIS」と入力する。
- ② 表示された QGIS のアイコンをクリックして起動する。



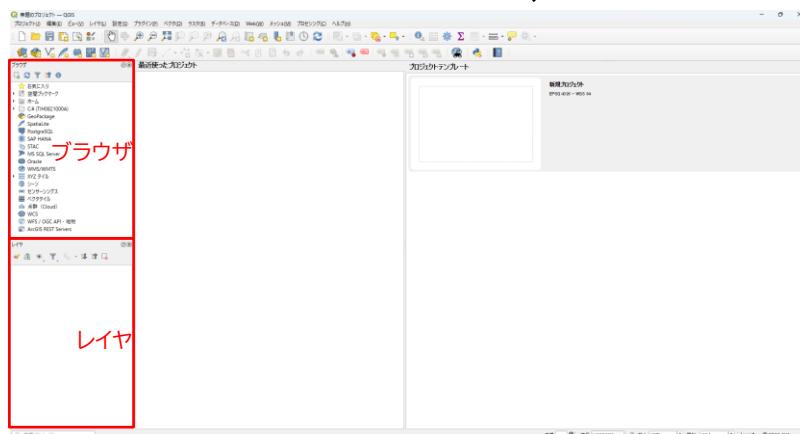
※起動時に SSL エラーが表示される場合があるが、QGIS の使用には影響しないため「無視」をクリックして問題ない。

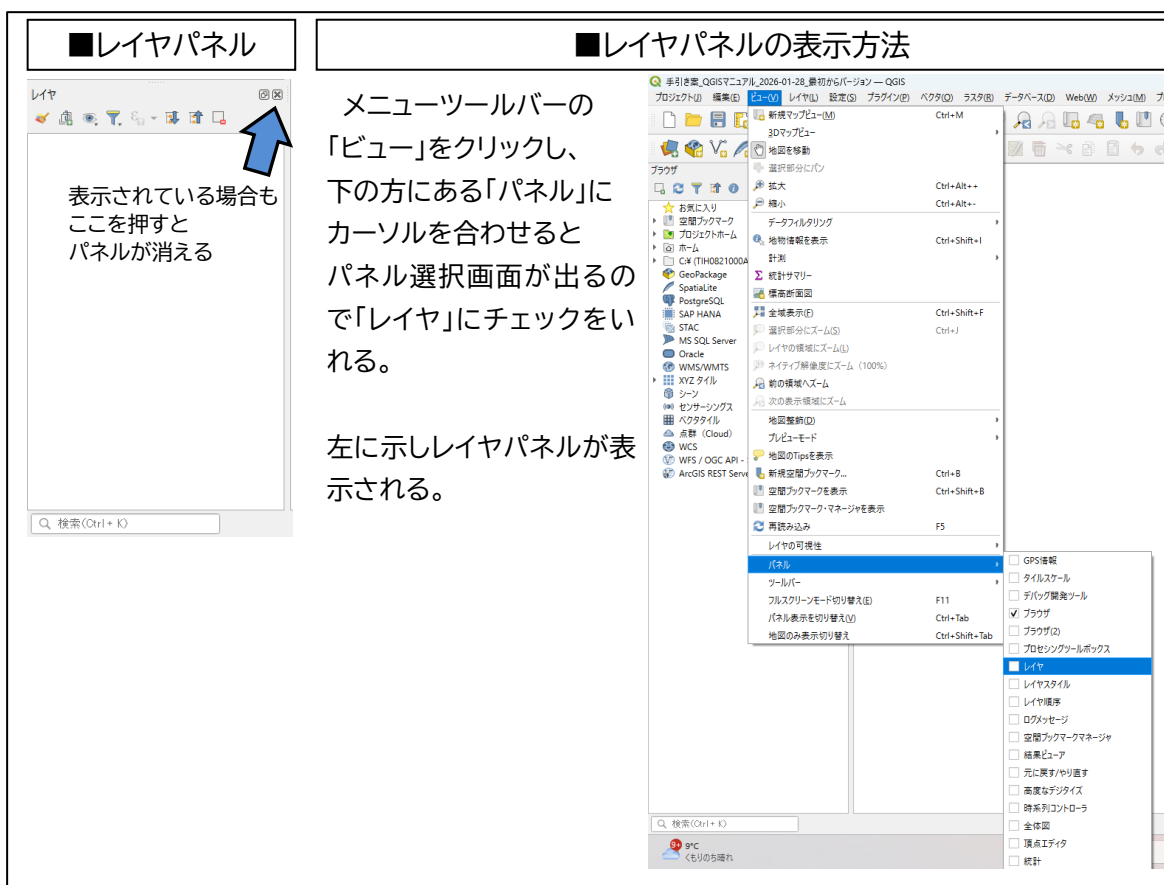
QGIS が起動すると、通常は「ブラウザパネル」と「レイヤパネル」が表示される。レイヤパネルが表示されていない場合は、以下の操作で表示させる。

メニューバーの「ビュー」→「パネル」→「レイヤ」にチェックを入れる。



クリック



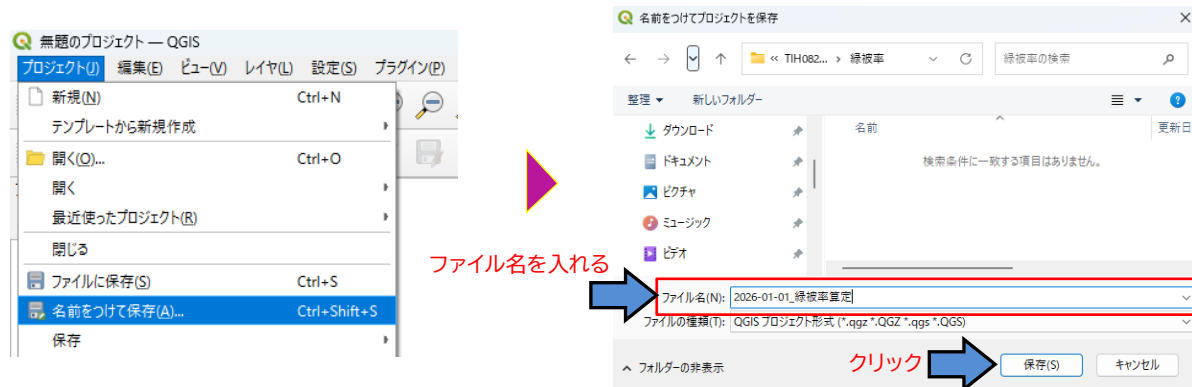


5. QGIS プロジェクトの保存

QGIS を起動直後の状態では、画面左上に「無題プロジェクト-QGIS」と表示されている。プロジェクトとは、QGIS 上で読み込んだデータや表示状態、解析手順をまとめて保存するためのファイルであり、拡張子は「.qgz」である。

※作業を始める前に、必ず最初にプロジェクトを保存しておくことを推奨する。

- ・メニューバーの「プロジェクト」→「名前を付けて保存」をクリックし、任意の場所にファイル名を付けて保存する。



6. プロジェクトの CRS（空間参照系）の設定

6.1 CRS とは

CRS（Coordinate Reference System：空間参照系）とは、地図上の位置をどのようなルールで表現するかを定めたものである。

CRS は主に次の 3 点を決めている。

1. 測地系(どの地球モデルを使うか)

例：日本：JGD2011（EPSG：6668）、世界標準：WGS84（EPSG：4326）

2. 投影法(緯度経度か、平面座標か)

面積計算には平面座標系が必要

3. 適用地域(歪みを最小にする地域)

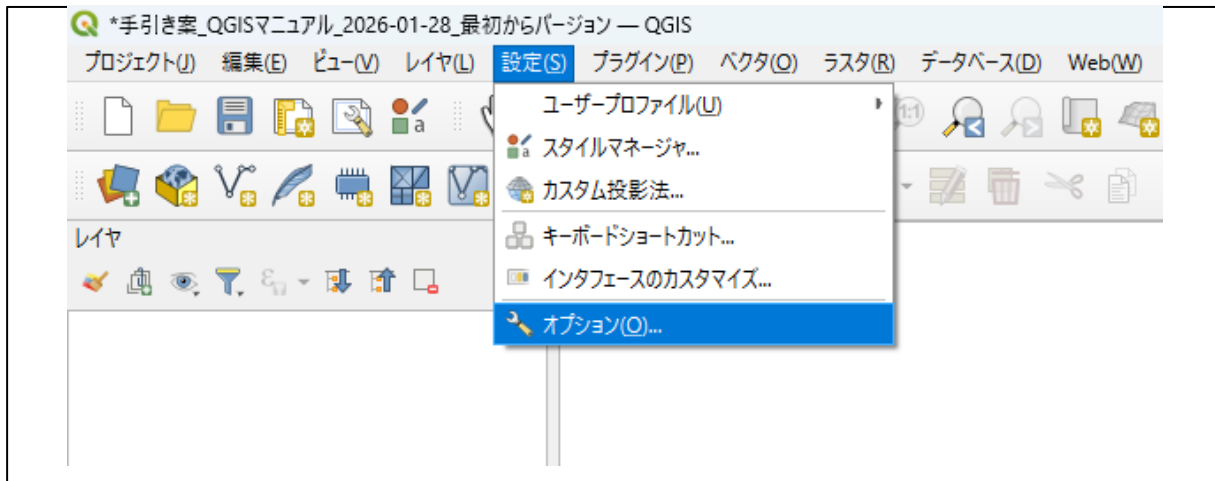
※面積を正確に算出するため、本マニュアルでは JGD2011 の平面直角座標系を使用する。

日本の都道府県単位程度の広さを対象に QGIS を用いる場合は、通常、JGD2011 の平面直角座標系に設定する。平面直角座標系は 特定の地域を、ゆがみの小さい平面として扱う投影法であり、面積を算出する際の誤差が最小となる投影法である。平面直角座標系は地域ごとに最適化されており、全国を 19 の地域に分けて歪みが極めて小さくなるように設定されている。別の見方をすれば、19 の地域にあった正しい座標系を設定する必要があるということになる。

以降に、QGIS の平面直角座標系の設定方法を解説する。

6.2 CRS の設定方法

①メニューツールバーの「設定」→「オプション」を開く。



② 「CRS と変換」の「CRS の扱い」を選択し、以下のように設定する。

▼プロジェクトの座標参照系 (CRS)

■ 「新規にプロジェクトが作成された場合」 ⇒ 「デフォルトの CRS を使う」を選択し、メニューから CRS を選択するか (クリック①)、右側にあるアイコン (クリック②) をクリックすると出てくるダイアログボックスで CRS を設定する。

ここでは、東京都がある平面直角座標系第IX系の設定をするため、フィルタに 6677 と入れて出てくる「最近使った座標参照系 (CRS)」又は「あらかじめ定義された座標参照系 (CRS)」を選択して、「クリック③」を押し、「クリック④」の OK で CRS を設定できる。

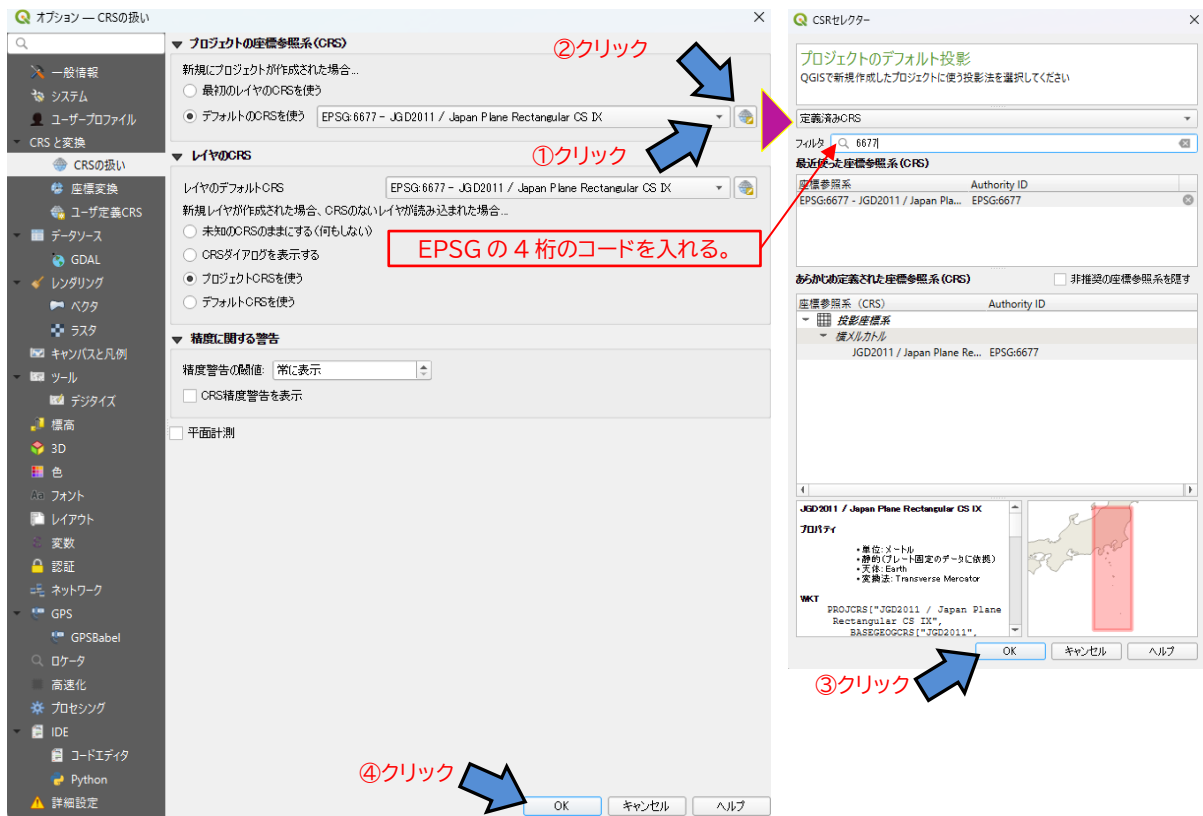
座標系の選択方法は、次ページの「平面直角座標系の選択方法」に詳細を掲載した。

▼レイヤの CRS

■ 「レイヤのデフォルトの CRS」 ⇒ 「プロジェクトの座標参照系)」と同じものを選択する。

■ 「新規レイヤが作成された場合、CRS のないレイヤが読み込まれた場合」 ⇒ 「プロジェクト CRS を使う」を選択

注) QGIS バージョンによっては、CRS 設定時にフリーズしたり、エラーメッセージが出るこ
とが報告されている。その場合は、Long Term Release のバージョンをインストールする
ことで改善できる可能性がある。なお、3.40.14-Bratislava、3.44.8-Solothurn では問題が
発生していないことを確認済みである。



■平面直角座標系の選択方法

平面直角座標系は、使用する地域に応じた座標系を選択する必要があり、JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS ●● (●●は地域に応じた I ~XIX を選択) のように記載された座標系を選ぶ必要がある。ただし、似たような表記が多く迷うことも多いため、Authority ID で選択する方が確実である。

具体的には、前図の「CSR セレクター」ダイアログボックスの上部にあるフィルタの欄に下表の EPSG の 4 桁の数字を入れる。東京エリアであれば、6677 を入れると JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX が、「最近使った座標参照系 (CRS)」か「あらかじめ定義された座標参照系 (CRS)」に出てくるので、どちらかを選択して、下の OK をクリックすれば CRS を設定できる。

自身の都道府県が第何系かは、以下の国土地理院のサイトからも確認できる。

<https://www.gsi.go.jp/LAW/heimencho.html>

系番号	適用区域	EPSG
I	長崎県 鹿児島県のうち北方北緯 32 度南方北緯 27 度西方東経 128 度 18 分東方東経 130 度を境界線とする区域内 (奄美群島は東経 130 度 13 分までを含む。)にあるすべての島、小島、環礁及び岩礁	6669
II	福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 (I 系に規定する区域を除く。)	6670
III	山口県 島根県 広島県	6670
IV	香川県 愛媛県 徳島県 高知県	6671
V	兵庫県 鳥取県 岡山県	6673
VI	京都府 大阪府 福井県 滋賀県 三重県 奈良県 和歌山県	6674
VII	石川県 富山県 岐阜県 愛知県	6675
VIII	新潟県 長野県 山梨県 静岡県	6676
IX	東京都 (XIV 系、XVIII 系及び XIX 系に規定する区域を除く。) 福島県 栃木県 茨城県 埼玉県 千葉県 群馬県 神奈川県	6677
X	青森県 秋田県 山形県 岩手県 宮城県	6678
XI	小樽市 函館市 伊達市 北斗市 北海道後志総合振興局の所管区域 北海道胆振総合振興局の所管区域のうち豊浦町、壮瞥町及び洞爺湖町 北海道渡島総合振興局の所管区域 北海道檜山振興局の所管区域	6679
XII	北海道 (XI 系及び XIII 系に規定する区域を除く。)	6680
XIII	北見市 帯広市 釧路市 網走市 根室市 北海道オホーツク総合振興局の所管区域のうち美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町及び大空町 北海道十勝総合振興局の所管区域 北海道釧路総合振興局の所管区域 北海道根室振興局の所管区域	6681
XIV	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 140 度 30 分から東であり東経 143 度から西である区域	6682
XV	沖縄県のうち東経 126 度から東であり、かつ東経 130 度から西である区域	6683
XVI	沖縄県のうち東経 126 度から西である区域	6684
XVII	沖縄県のうち東経 130 度から東である区域	6685
XVIII	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 140 度 30 分から西である区域	6686
XIX	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 143 度から東である区域	6687

7. 必要データのダウンロードと QGIS への読み込み

7.1 用途地域データの準備

補正緑被率を算定するためには、用途地域ごとの面積集計が必要となる。

地方公共団体が保有する最新の用途地域 GIS データがある場合はそれを使用してよいが、ここでは国土交通省が公開している「都市計画決定 GIS データ」を使用する方法を示す。

- ①以下の URL にアクセスし、「以上の内容について、同意しました (チェックを入れるとダウンロードページへのボタンがクリックできるようになります)」にチェックを入れた後、「ダウンロードページ」をクリックする。

https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000087.html

都市計画決定 GIS データ 全府データダウンロードページ

このページは「都市計画決定に関するGISデータの公開データダウンロードページ」です。国土交通省の責任で全国の都市計画決定に関するGISデータを整備したデータベースで、インターネットを利用して無料で提供しています。ホームページでダウンロードできるデータは、「GISソフト」で使用することができます。GISソフトをお持ちでない方は、一部のデータに限りませんが、[国土交通省GISソフト](#)でご覧いただくことが可能です。

都市計画決定GISデータ 全府データ	
更新年度	令和7年8月5日
内容	全国の都市計画決定情報のGISデータを整備したものです
データ作成年度	令和6年度
原典資料	地方公共団体等作成の都市計画図解情報又はGISデータ、国土交通省作成の国土数値情報
作成方法	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体等からGISデータの提供があった場合は、内容を確認・修正し、製品仕様書に準拠したデータ構造等として編集加工を行いました。 地方公共団体等からGISデータの提供がなく、2018年4月1日以後の都市計画変更があった場合は、国土交通省不動産・建設経済局が2018年に整備した「国土数値情報」を製品仕様書に準拠したデータ構造等として編集加工を行いました。 上記以外の場合は、地方公共団体等から提供された都市計画図解情報とスキャニング・解像補正をしたデータを、図面に記載されている境界線をデジタルサイズにより入力し、属性情報の付与、データの構造化を行いました。
シェープファイル・GeoJSON形式	データ集覧書.pdf
CityGML形式	CityGML仕様書.pdf
公表目録表及び掲載データ一覧	公表目録表及び掲載データ一覧.xlsx (令和7年7月24日時点)
このデータの取扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> 掲載データは、市町村又は都道府県から提供されたGISデータや衛星画像等の資料を用いて、国土交通省都市計画課において整備したものです。 掲載データは、建築確認申請や不動産登記簿等の手続に利用することを保証するものではありません。参考情報として利用を想定しています。 掲載データに含まれる地区・地域の範囲は、概略の位置を示すものであり、実際の都市計画の決定範囲等と異なる場合があります。 地方公共団体がGISデータを保有していない、あるいはGISデータとして公表できないといった理由から、都市計画決定があっても本サイトに掲載されていないデータがあります。 掲載データは、当該自治体の都市計画等の情報全てではないことがあります。 都市計画区域(都市計画区域)を、行政区域、市街化区域、市街化調整区域から作成している自治体等一部に高まっております。 掲載データについては、最新のものではないことがあります。掲載データについては、上欄の「公表目録表及び掲載データ一覧.xlsx」を参考にしてください。 掲載データについてのお問い合わせは、国土交通省都市計画課(都市計画課)までお願いします。 最新の正確な都市計画決定情報は、該当する地方公共団体の担当課までお問合せください。 国及び地方公共団体が提供した地方公共団体は、利用者が掲載データを用いて行う一切の行為(コンテンツを複製・加工等した情報を利用することを含む。)及び掲載データの利用によって発生した損害または権利の損失、損害等について、何ら責任を負うものではありません。

チェック 以上の内容について、同意しました (チェックを入れるとダウンロードページへのボタンがクリックできるようになります)

[ダウンロードページへ](#) クリック

- ②必要な都道府県のデータをクリックし、zip ファイルをダウンロードする。以下は東京都の例。

都市交通調査・都市計画調査

ホーム > 政策・仕事 > 都市 > 都市交通調査・都市計画調査 > 都市計画情報 全府データダウンロードページ > ダウンロードするデータの選択

ダウンロードするデータの選択

都道府県	年度	シェープファイル形式	CityGML形式	GeoJSON形式
北海道	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
青森県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
岩手県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
宮城県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
秋田県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
山形県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
福島県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
茨城県	令和6年	ダウンロード (R7.10.16修正)	ダウンロード (R7.10.16修正)	ダウンロード (R7.10.16修正)
栃木県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
群馬県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
埼玉県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
千葉県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
東京都	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
神奈川県	令和6年	ダウンロード (R7.10.17修正)	ダウンロード (R7.10.16修正)	ダウンロード (R7.10.16修正)
新潟県	令和6年	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード

クリック

③名前を付けて保存を押すと、ダウンロードしたフォルダに以下のような zip ファイルが保存される。以下は東京都の例である。

これを 7ZIP などの解凍ソフトで展開する。



④展開すると、下図のように都道府県フォルダの中に市区町村ファイルが並んでいる。



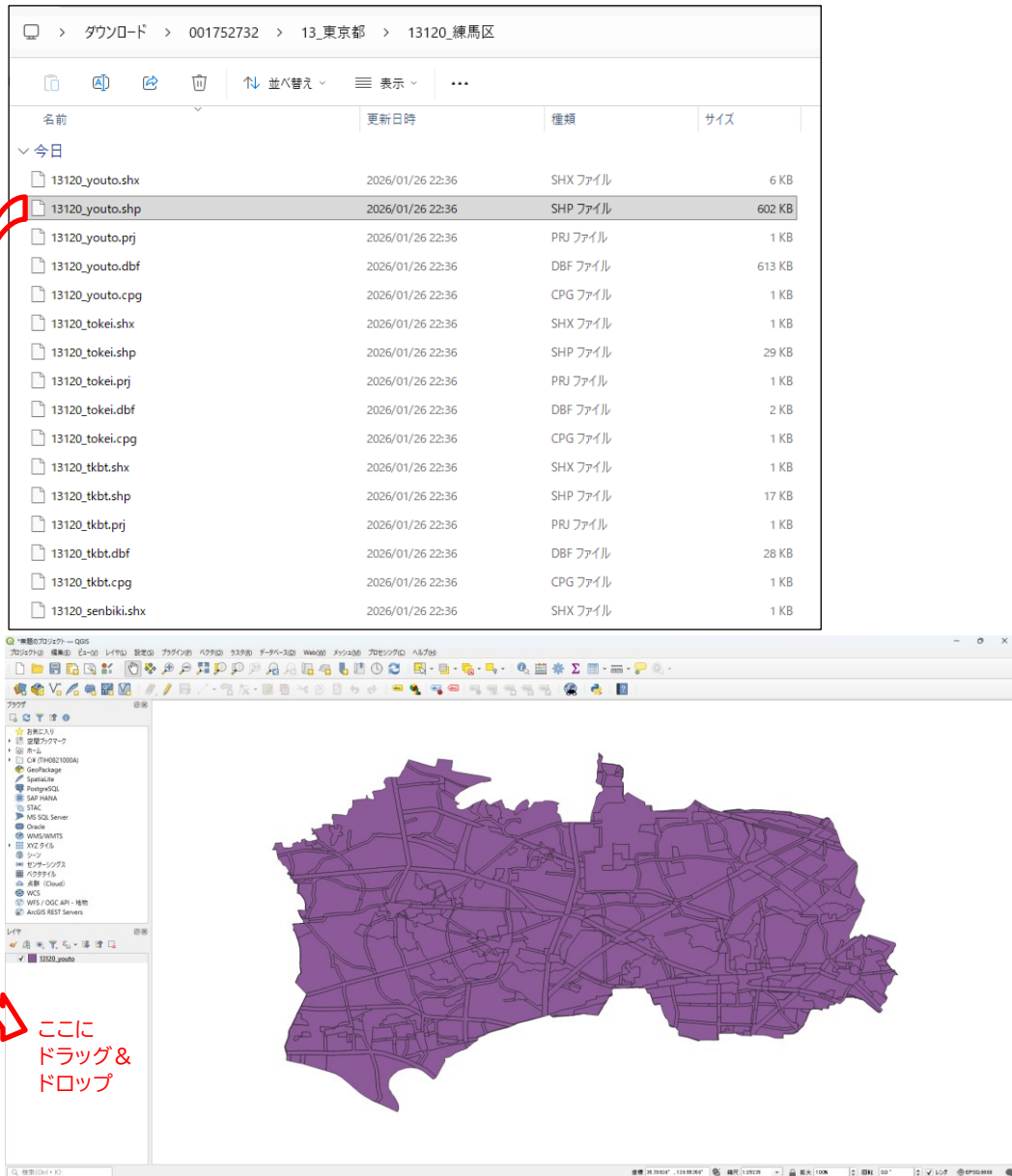
⑤市区町村のフォルダ内には、多数のファイルが格納されているため、その中から、「youto」の文字のファイルを探す。



⑥ 「youto」には5種程度の拡張子がついたファイルがある。これらはすべてGIS関連のデータであるが、その中から「youto.shp」ファイルを探してQGISのレイヤに読み込む。

この際、QGISの画面にレイヤパネルがない場合は、メニューツールバーの「ビュー」をクリックし、下の方にある「パネル」にカーソルを合わせるとパネル選択画面が出るので「レイヤ」にチェックをいれて表示させておくとよい。

⑦ 「youto.shp」をドラッグ&ドロップでレイヤに表示される。



7.2 JAXA 高解像度土地利用土地被覆図 データダウンロード

①以下の URL にアクセスする。

https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/jp/dataset/lulc_j.htm

※開いた画面の下部にユーザー登録サイトがあるため、初めての方はユーザー登録が必要である。

3. データのダウンロード方法

本プロジェクトは対象エリア・時期を順次増やしています。ご要望に沿うエリア・時期のデータが既に整備されているかどうか、まず「2. 公開データ詳細」をご確認ください。

本データセットをダウンロードするためには、下記URLにアクセスしユーザー登録を行っていただく必要があります。登録にはメールアドレスが必要ですが、

▶ https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/lulc/registration_j.htm **クリック**

上記URLにアクセスし必要事項を入力すると、仮登録が行われます。特にご自身のメールアドレスにお間違いがないかご確認ください。この時点では登録は完了しません。仮登録後、入力したメールアドレスにメールが送信されます。送信されたメールの本文にあるURLに再度アクセスしていただくこと本登録となり、ダウンロード方法を記載したメールが送信されます。ダウンロードページへのアクセス時に入力をご要求される

「ユーザ名」には「ID」(登録いただいたメールアドレス)
「パスワード」には「Password」(空白を除いた文字列のみ)

をお使い下さい。「パスワード」の入力ミスも多くみられます。メールで連絡の「Password」をコピー&ペーストされることをお勧めします。何度か入力を間違えるとログインできない状態になりますが、約20分経過するとロックは自動解除されます。

また、案内のメールが届かない・紛失したなどの場合は、再度ユーザ登録を行っていただければ最新のパスワードが有効になります。

本データセットのダウンロードは以下から可能です。

▶ https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/lulc/data/index_j_v25.09.htm

※ パスワードをお忘れの際は、再度ユーザ登録をお願いいたします。

※ ブラウザはMicrosoft Edge, Google Chrome, Mozilla Firefox, Apple Safariの利用を推奨します。

※ 時間帯によっては、ページの表示やダウンロードに時間がかかることがあります。

③開いた画面の下部にダウンロードリンクがあるので、

Downloads 日本域 10m 解像度 (2024JPN_v25.04, 2022JPN_v25.04, 2020JPN_v25.04 : 15 カテゴリ) をクリックする。ログインすると下記の画面になるので、

HLRULC 10m resolution map of Japan (2024JPN_v25.04, 2022JPN_v25.04, 2020JPN_v25.04) をクリックする。



Home > 高解像度土地利用土地被覆図 > ダウンロード

高解像度土地利用土地被覆図 ダウンロード

(2025年9月19日更新)

ダウンロード一覧

- ▶ [日本域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2024JPN_v25.04, 2022JPN_v25.04, 2020JPN_v25.04\)](#) **クリック**
- ▶ [日本域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2022JPN_v23.12\)](#)
- ▶ [沖縄島10m解像度土地利用土地被覆図 \(2020OKA_v23.01\)](#)
- ▶ [日本域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2018-2020JPN_v21.11\)](#)
- ▶ [日本域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2018-2020JPN_v21.03\)](#)
- ▶ [日本域30m解像度土地利用土地被覆図 \(2014-2016JPN_v18.03\)](#)
- ▶ [日本域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2006-2011JPN_v16.09\)](#)
- ▶ [東南アジア域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2023SEA_v25.09\)](#) **NEW**

▶ [日本域10m解像度土地利用土地被覆図 \(2024JPN_v25.04, 2022JPN_v25.04, 2020JPN_v25.04\)](#)

■2024年

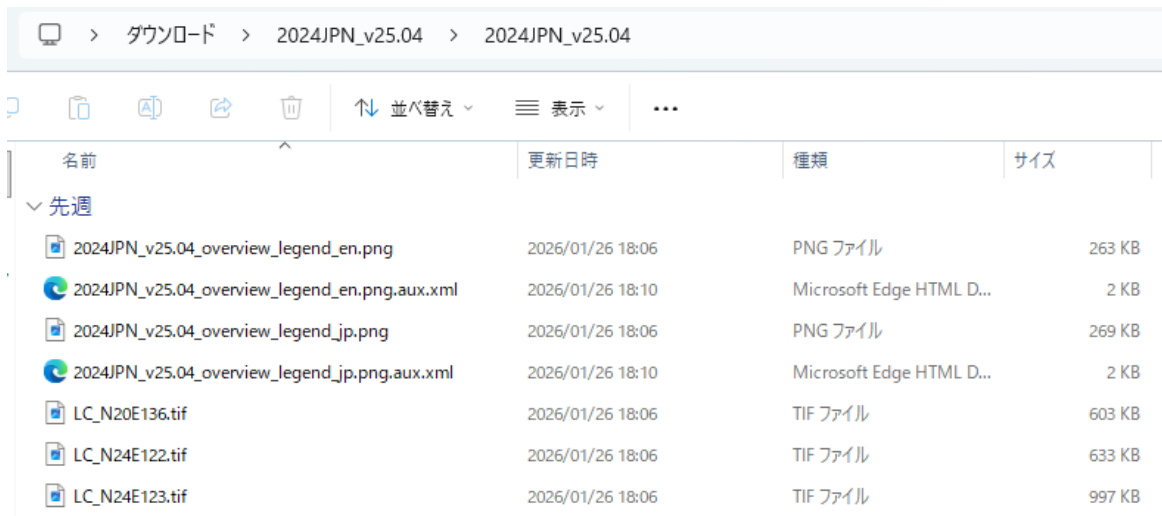
全域一括ダウンロード

- 10m相当解像度版日本全域GeoTiff形式データ (624MB) **download** **クリック**
- 50m相当解像度版日本全域GeoTiff形式データ (47MB) **download**
- 100m相当解像度版日本全域GeoTiff形式データ (14MB) **download**
- 250m相当解像度版日本全域GeoTiff形式データ (3MB) **download**
- 500m相当解像度版日本全域GeoTiff形式データ (1MB) **download**

1度グリッドタイル毎のダウンロード

- 10m相当解像度版ダウンロード用KML (kmlファイル / 1.5KB) **download**
- 50m相当解像度版ダウンロード用KML (kmlファイル / 1.5KB) **download**
- 100m相当解像度版ダウンロード用KML (kmlファイル / 1.5KB) **download**
- 250m相当解像度版ダウンロード用KML (kmlファイル / 1.5KB) **download**
- 500m相当解像度版ダウンロード用KML (kmlファイル / 1.5KB) **download**

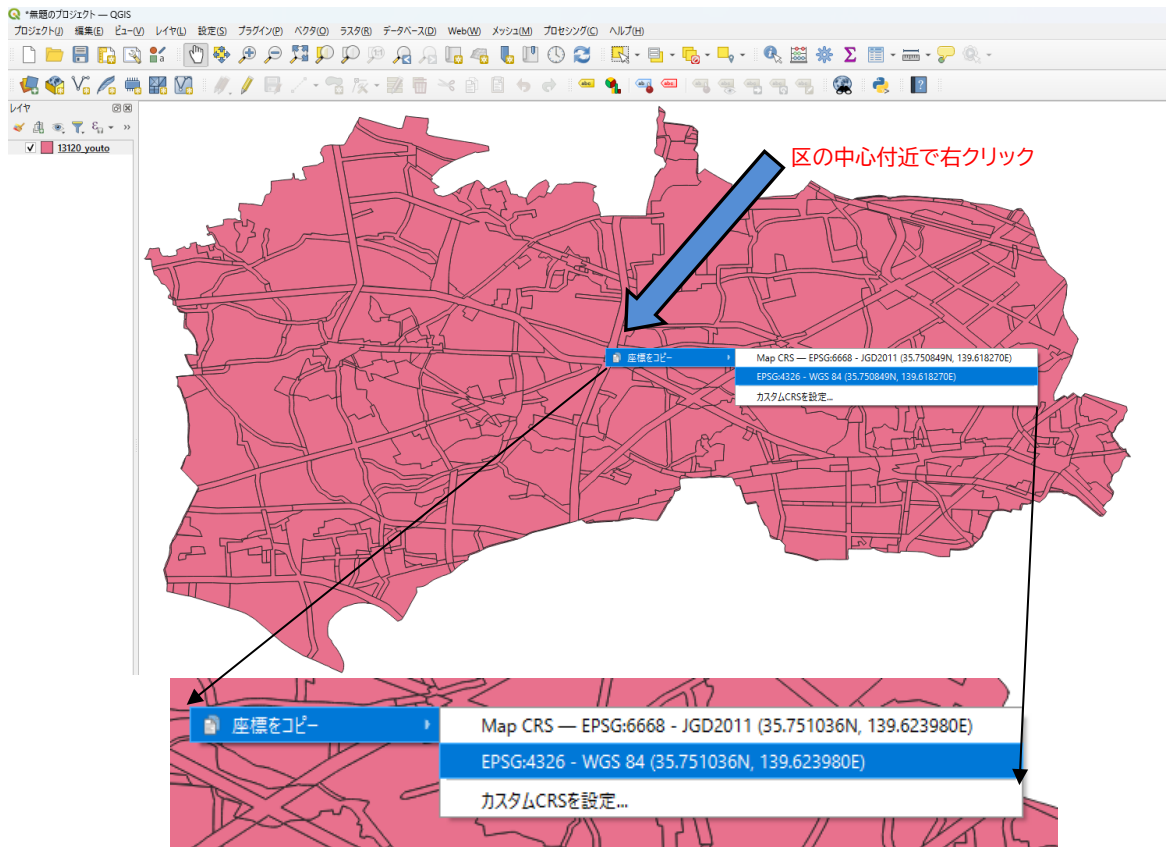
- ④2024JPN_v25.04.zip がダウンロードされるので、7ZIPなどの圧縮ソフトで展開する。展開すると下記のようなファイル群が解凍されるので、ここから使用したいエリアのファイルを選択する。



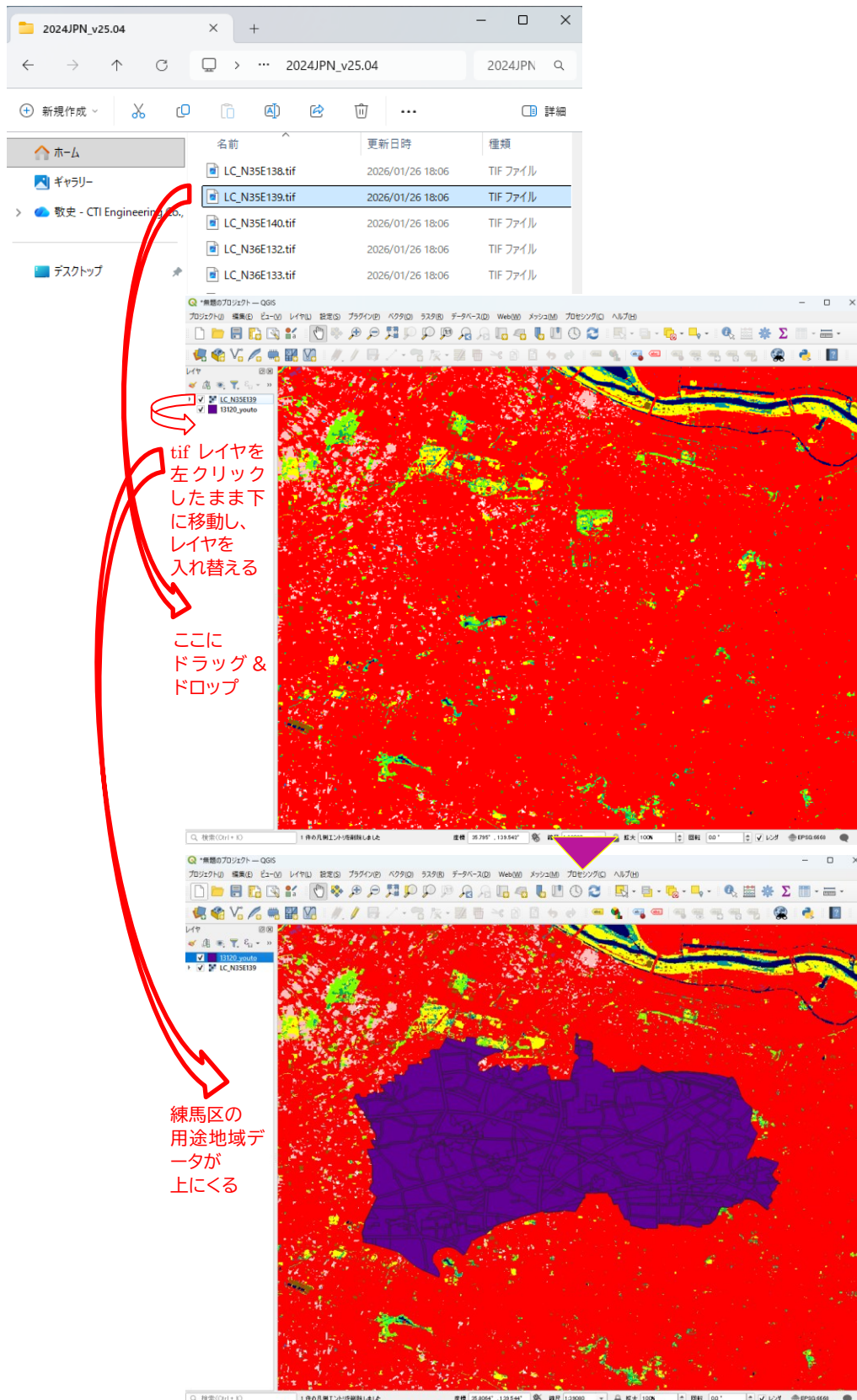
名前	更新日時	種類	サイズ
2024JPN_v25.04_overview_legend_en.png	2026/01/26 18:06	PNG ファイル	263 KB
2024JPN_v25.04_overview_legend_en.png.aux.xml	2026/01/26 18:10	Microsoft Edge HTML D...	2 KB
2024JPN_v25.04_overview_legend_jp.png	2026/01/26 18:06	PNG ファイル	269 KB
2024JPN_v25.04_overview_legend_jp.png.aux.xml	2026/01/26 18:10	Microsoft Edge HTML D...	2 KB
LC_N20E136.tif	2026/01/26 18:06	TIF ファイル	603 KB
LC_N24E122.tif	2026/01/26 18:06	TIF ファイル	633 KB
LC_N24E123.tif	2026/01/26 18:06	TIF ファイル	997 KB

使用したいファイルの選択方法を以下の練馬区の例で示す。

すでに QGIS に読み込んでいる用途地域のレイヤを選択し、区内の任意の場所で右クリックすると、「座標をコピー」のメニューが出てくるので、そこにカーソルを合わせると座標が 2 つ出てくる。ここでは、EPSG:4326 の方の座標を確認する。この例では、「35.754031,139.644759」であるので北緯 (N) 35、東経 (E) 139 の部分を確認する。これをもとに、ダウンロードしたファイルは、LC_N35E139.tif というファイルを探す。



⑤ダウンロードしたファイルをまとめて選択し、QGIS にドラッグ&ドロップすると、JAXA データのレイヤが上に入り以下のようなになる。



8. 用途地域ごとの緑被地の面積計算

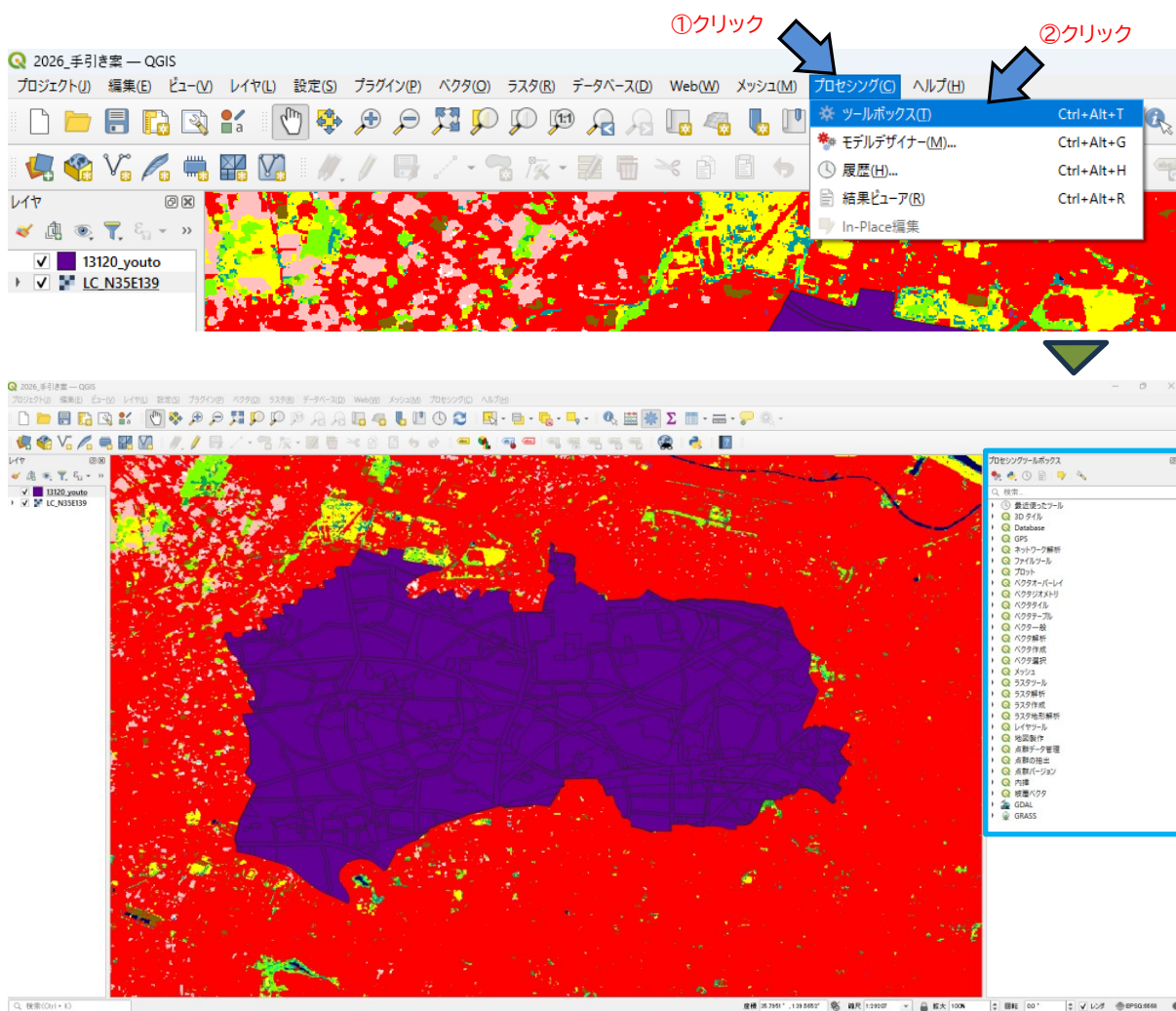
7. まだが用途地域ごとに緑被地の面積を計算するための事前準備に該当する。

以降は、面積計算のための手順となるが、ここでも正確な面積を計算するための調整が必要となる。

8.1 使用する QGIS のツールボックスの準備

以降の作業では「プロセッシングツールボックス」を使用する。

メニューバーの「プロセッシング」→「ツールボックス」をクリックする。



8.2 面積計算のための平面直角座標系への再投影

GIS で面積計算を行う場合、必ず平面直角座標系に変換してから処理を行う必要がある。

※緯度経度のまま面積計算を行うと、無視できない誤差が発生する。

本説明で使用している用途地域と JAXA 土地被覆データはいずれも地理座標系（緯度経度座標）であるため、平面直角座標系に再投影する必要がある。

(1) 用途地域データの再投影

都市計画決定 GIS データからダウンロードしたデータは、EPSG:6668 - JGD2011 の地理座標系である。再投影方法は複数あるが、ここでは、「プロセッシングツールボックス」→「ベクタレイヤを再投影」を使用して平面直角座標系に再投影する方法を解説する。

①用途地域レイヤ（図では「13120_youto」）をクリックして選択した状態にしておき、「プロセッシングツールボックス」の検索ボックスに「warp」と入れ、「ベクタレイヤを再投影」をダブルクリックすると、「ベクタレイヤを再投影」ツールボックスが出てくる。

「ベクタレイヤを再投影」ツールボックスでは、まず入力レイヤが用途地域のレイヤになっているか確認する。前述の手順で実施すれば、用途地域のレイヤ（本例では「13120_youto」）が選択されているはずである。

次に、「変換先 CRS」から「プロジェクト CRS」を選択する。プロジェクト CRS が正しく設定されていれば、本例では「EPSG : 6677-JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX」が選択できる。

最下部に「再投影されたベクタレイヤ」の欄がある（見えない場合は右側にあるスクロールバーを下にずらす）ので、右端にある「…」をクリックして「GeoPackage に保存」を選択し、ここに再投影されたベクタデータを保存するファイル名（レイヤ名_6677 など）を入れておく。保存をクリックして、ファイル名と同様の名前をレイヤ名とし、「保存」して「実行」をクリックすると、再投影された新しいレイヤが追加される。

①クリック

Warp と入れる

②ダブルクリック

ベクタレイヤツールボックス

ベクタレイヤを再投影

ベクタレイヤを再投影

用途地域のレイヤが選択されているか確認。この例では、13120_youto_...

ここをクリックして、プロジェクト CRS を選択する。本例では、プロジェクト CRS は EPSG:6677 に設定されているので、プロジェクト CRS を選択すれば、EPSG:6677-JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX が選択される。

③ここをクリックして「GeoPackage に保存」を選択

⑤クリック

GeoPackage に保存

レイヤ名
13120_youto_6677

ファイル名と同じレイヤ名を付ける。

レイヤ名_6677 などのファイル名を付ける。

④クリック

保存(S)

完了

⑥クリック

実行をクリックすると、このようなログが出てきて、通常はほとんど時間がかからずに完了する。

```

QGIS version: 3.16.1 (Tokyo)
PROJ version: Rel. 7.2.1, December 1st, 2025
PDAL version: 2.8.0 (rel-version: 89533b)
ArcPy version: 1.10.13 (rel-version: 2026-02-04T20:04:08)
Python version: 3.11.7 (tags/v3.11.7:1000003, Sep 14 2023)
実行コマンド: ベクタレイヤを再投影 参照してください...
入力パラメータ:
  ("COSVERT_CURVED_GEOMETRIES": False, "INPUT": 'C:/001752732/13_東京都/13120_練馬区/13120_youto.shp', "OPERATION": 'proj=pipeline +step=proj=unitconvert +xy_in=deg +xy_out=rad +step=proj=force +lat_0=36 +lon_0=139.833333333333 +x_0=0.9999 +y_0=0 +ellps=GRS80', "OUTPUT": 'ogr:dbname="C:/練馬区/13120_youto_6677.gpkg"! table="13120_youto_6677" (geom)', "TARGET_CRS": QgsCoordinateReferenceSystem('EPSG:6677'))
0.18 秒で実行が完了しました
結果:
OUTPUT: C:/練馬区/13120_youto_6677.gpkg [layername=13120_youto_6677]
出力レイヤの読み込み
アルゴリズム ベクタレイヤを再投影が終了しました

```

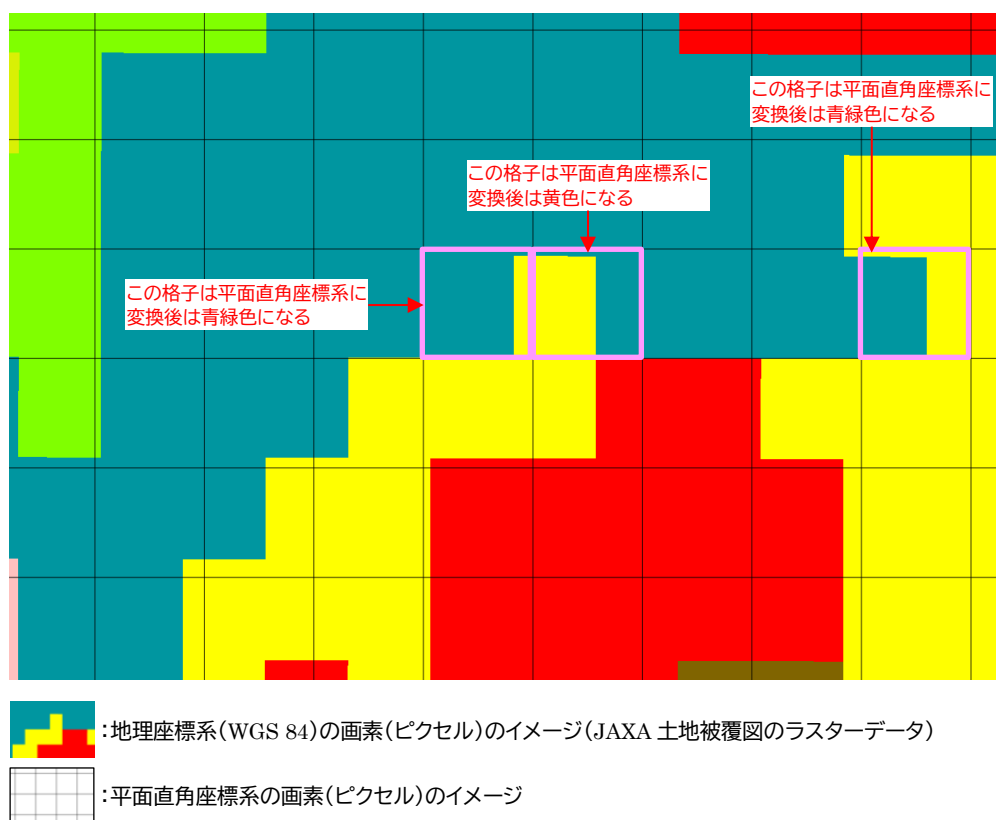
新しいポリゴンが画面に追加される。

再投影したレイヤが追加される。

(2) JAXA 土地被覆データの再投影と基準ラスタの作成

JAXA 土地被覆データのようなラスタデータは、グリッドデータやメッシュデータとも呼ばれ、画素（ピクセル）の集まりから構成されるデータである。平面直角座標系のラスタデータでは、下図の黒線の格子のように、正方形のセルが規則的に配置されている。一方、地理座標系のラスタデータは、色塗りのデータに示すように、南北方向のラインに完全には直交しておらず、セルの縦横比も一定でない場合が多い。JAXA 土地被覆図データを平面直角座標系に変換する際には、地理座標系上の色塗り部分を、平面直角座標系の黒線の格子に当てはめるイメージで再配置（リサンプリング）されることになる。今後、経年変化を比較・分析する作業が発生することを考慮すると、この基準となる格子は、地方公共団体において統一的に設定しておくことが望ましい。

よって、ここでは、この基準ラスタの作成を意識しつつ、JAXA 土地被覆データを再投影する手順を解説する。



JAXA 土地被覆データの再投影は、以下の流れで行う。

- ①13120_youto_6677 をもとに 100m バッファを作成。Buffer100_13120_youto_6677.gpkg
- ②Buffer100_13120_youto_6677 を囲む矩形の座標を取得
- ③②の座標を 10m 単位にまとめる
- ④Warp で JAXA 土地被覆データを再投影し、併せてこのデータを基準ラスタとする。

① プロセッシングツールボックスの検索バーに「バッファ」と入力して出てくる、「ベクタジオメトリ」→「バッファ (buffer)」をダブルクリックする。

「バッファ (buffer)」ダイアログボックスが出てくるので、下図のように入力し、出力レイヤの右端にある「…」をクリックして、GeoPackage に保存を選ぶ。

「GeoPackage に保存」ダイアログボックスにファイル名を入力し、レイヤ名のダイアログボックスにも同じ名前を入力して「実行」をクリックするとバッファポリゴンが作成される。

重要！チェックを入れる

①ダブルクリック

②クリック

レイヤ名にも同じ名前を入れておく

③クリック

レイヤをこの順番にすると、青塗りの 100m バッファ分がはみ出たポリゴンが作成される。

②①で作成したバッファポリゴンの外周矩形の座標値を得るため、

「Buffer100_13120_youto_6677」レイヤを選択状態にして、プロセッシングツールボックスの検索ボックスに「レイヤ領域」と入力し、一覧に出てくる「レイヤ領域を抽出」をダブルクリックする。「レイヤ領域を抽出」ダイアログボックスでは、下図のように基本的にデフォルト設定で何も入力せずに「実行」をクリックすると、「領域」レイヤと矩形のポリゴンが作成されるので、「領域」レイヤを右クリックして「属性テーブルを開く」をクリックして、属性データを表示する。

属性データには、MINX (xmin)、MINY (ymin)、MAXX (xmax)、MAXY (ymax) から WIDTH までの数値が入っているが、こうち MAXY までのデータを EXCEL シートにコピーする。

The image shows a sequence of steps in a GIS application:

- レイヤ領域を抽出 (Layer Area Extraction) Dialog Box:**
 - Input Layer: Buffer 100_13120_youto_6677 [EPSG:6677]
 - Number Rounding Standard: 0.000000 (Default)
 - Area: [一時レイヤを作成] そのまま何も入れなくて良い
 - アルゴリズムの終了後に出力ファイルを開く (Default [checked])
 - Buttons: 実行 (Execute), 閉じる (Close), キャンセル (Cancel), ヘルプ (Help)
- レイヤ (Layers) Panel:**
 - Layers: 領域 (Area), Buffer100_13120_youto_6677, 13120_youto_6677, LC_N35E139
 - Context Menu: レイヤの領域にズーム(Z), 選択部分にズーム(S), 全体図に表示(O), 地物の数を表示(C), ラベルを表示(L), レイヤをコピー, レイヤの名前を変更(n), レイヤを複製(D), レイヤを削除(R)..., 一番下に移動(B), **属性テーブルを開く(A)** (highlighted), 編集モードを切り替え(E)
- 属性テーブル (Attribute Table):**

領域 — 地物数合計: 1, フィルタ: 1, 選択: 0

	MINX	MINY	MAXX	MAXY	CNTX
1	-24552.080455...	-32032.645038...	-13651.857726...	-24308.398189...	-19101.969090...

③ここでは、JAXA 土地被覆データの再投影を 10m で割り切れる基準ラスタとして作成するため、まず、作成する基準ラスタのための座標値を算出する。②の MINX (xmin)、MINY (ymin)、MAXX (xmax)、MAXY (ymax) をエクセルにコピーする。その後、GDAL の再投影 (warp) を使用して基準ラスタを作成するのであるが、再投影 (warp) に入力する矩形範囲の入力順が xmin、xmax、ymin、ymax であることから、下図の 4 行目に入力する数値は、ymin と xmax の位置を入れ替えておく。5 行目は、作成した領域ポリゴンを包含するようにし、かつ 10m 単位で割り切れる数値を算出するものである。7 行目に記載しているエクセル関数をそのまま 5 行目に入力すれば数値を算出できる。

The image shows a QGIS window with a table of coordinates. A red box labeled 'コピー&ペースト' (Copy & Paste) highlights the values in the second row of the table. Below this, an Excel spreadsheet shows the same values being pasted into cells B2, C2, D2, and E2. The spreadsheet also shows the order of coordinates for GDAL warp (xmin, xmax, ymin, ymax) and the final rounded values in row 5. Row 7 contains the Excel formulas used for rounding.

	MINX	MINY	MAXX	MAXY	CNTX
1	-24552.080455...	-32032.645038...	-13651.857726...	-24308.398189...	-19101.969090...

	A	B	C	D	E
1		xmin	ymin	xmax	ymax
2	QGISからコピー&ペースト	-24552.08046	-32032.64504	-13651.85773	-24308.39819
3	GDAL Warpの順番	xmin	xmax	ymin	ymax
4		-24552.08046	-13651.85773	-32032.64504	-24308.39819
5	10mメッシュで丸めた対象領域(AOI)の座標	-24560	-13650	-32040	-24300
6		↑	↑	↑	↑
7	入力式⇒	=FLOOR.MATH(B4,10)	=CEILING.MATH(C4,10)	=FLOOR.MATH(B2,10)	=CEILING.MATH(E4,10)

④JAXA 土地被覆図のレイヤ (LC_N35E139) を選択しておき、「プロセッシングツールボックス」の検索ボックスに「warp」と入れて出てくる一覧の「GDAL」→「ラスタ投影」→「再投影 (warp)」ダブルクリックすると「再投影 (warp)」ツールボックスが出てくる。「再投影 (warp)」ダイアログボックスの入力レイヤが JAXA 土地被覆図のレイヤ (LC_N35E139) になっていることを確認し、「変換先 CRS」を「プロジェクト CRS」¹に設定し、「変換先 CRS の単位での解像度」に「10」を入れる (10m グリッドの作成)。また、「詳細パラメータ」の▶をクリックして展開し、「出力ファイルの矩形範囲」に③で作成した 10m で丸めた座標値 (本例では、-24560,-13650,-32040,-24300) を入力する。コピー&ペーストした後、数値の間に「,」を入れてスペースを削除する。「再投影されたベクタレイヤ」²の右端の「...」をクリックして「ファイル保存」ダイアログボックスに「レイヤ名_6677_10m.tif」などの 10m 基準グリッドであることがわかるように名前を付けて保存する。本例では、このレイヤを基準グリッドにすることも考慮し、base を追記して「LC_N35E139_6677_10m_base.tif」とした。

¹ 最初の設定で、「プロジェクト CRS」が正しく設定されていれば、この例では、EPSG : 6677-JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX が選択されているはずである。

² 入力ボックスの名前が「再投影されたベクタレイヤ」となっているが、「再投影されたラスタレイヤ」の間違ひと思われる。

ラスタ投影 - 再投影 (warp)

パラメーター ログ

入力レイヤ
LC_N35E139 [EPSG:4326]

変換元CRS [オプション]

変換先CRS [オプション] **プロジェクト CRS を選択**
プロジェクトCRS: EPSG:6677 - JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX

リサンプリング法
最近傍法

出力バンドのnodata値 [オプション]
未設定

変換先CRSの単位での解像度 [オプション]
10.000000 **10m グリッドを作成するため「10」を入力**

▶ 詳細パラメータ **詳細パラメータもセッティングするため、▶をクリックしてメニューを展開する。**

再投影されたベクタレイヤ
[一時ファイルに保存]

アルゴリズムの終了後に出力ファイルを開く

▶ 詳細パラメータを展開

ラスタ投影 - 再投影 (warp)

パラメーター ログ

▼ 詳細パラメータ

追加オプション [オプション]
プロファイル

名前	値 (Value)

出力のデータ型
入力レイヤのデータ型を使う

出力ファイルの矩形範囲 [オプション] **xmin,xmax,ymin,ymax の順で入力 (カンマ区切りでスペース不要)**
-24560,-13650,-32040,-24300

出力ファイルの矩形範囲のCRS [オプション]

マルチスレッド実装を使用する

追加のコマンドラインパラメータ [オプション]

再投影されたベクタレイヤ
[一時ファイルに保存]

アルゴリズムの終了後に出力ファイルを開く

0%

詳細パラメータ ▶ バッチプロセスで実行... **実行** 開じる ヘルプ

プロセッシングツールボックス

warped warp と入れる

最近使ったツール

- 再投影 (warp)
- ベクター一般
 - ベクタレイヤを再投影
 - 投影法を設定
- GDAL
 - ラスタ抽出
 - マスクレイヤで切り抜く
 - ラスタ投影
 - 再投影 (warp)**

ダブルクリック

ファイル名を保存

LC_N35E139_6677_10m_base.tif などの名前を付けて保存

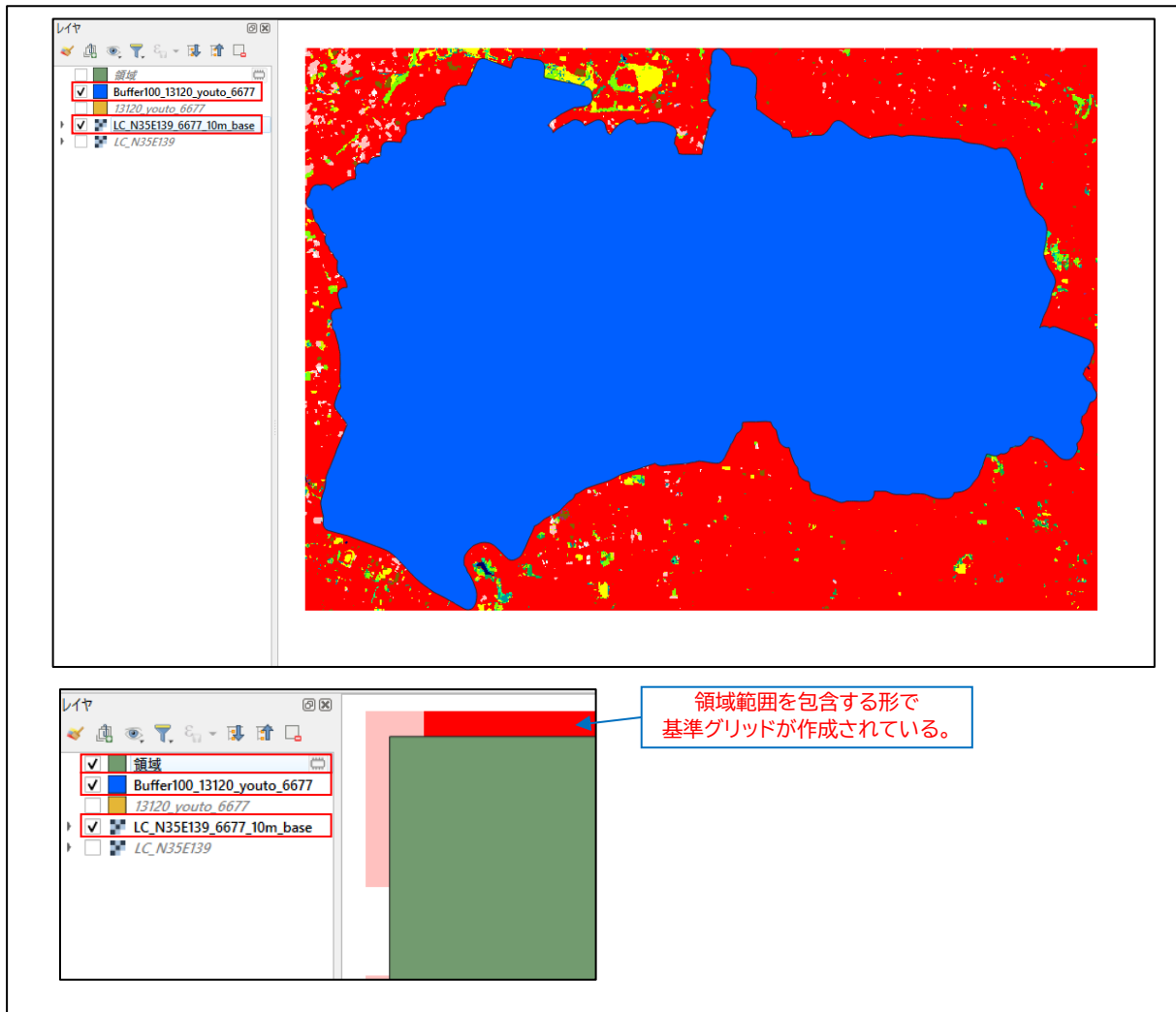
①クリック

一時ファイルに保存

②クリック

③クリック

⑤作成した JAXA 土地被覆図の再投影レイヤ (LC_N35E139_6677_10m_base) と 100m バッファレイヤ (Buffer100_13120_youto_6677) のみを表示すると、下図のようにほぼ「領域」レイヤと同じ範囲の JAXA 土地被覆図レイヤの切抜きが作成されている。実際には、10m×10m の基準グリッドレイヤに合わせて再投影された「JAXA 土地被覆図レイヤ」が作成されており、また、「領域」レイヤを包含するような基準グリッドが作成されている。



(3) JAXA 土地被覆図データのポリゴンデータへの変化

用途地域ごとの JAXA 土地被覆データの面積を算出する際、グリッドを途中で切るように交差した場合でも正確に面積を算出するためには、ラスターデータをポリゴンに変換しておく必要がある。

- ① JAXA 土地被覆図の再投影レイヤ (LC_N35E139_6677_10m_base) を選択しておき、プロセッシングツールボックスの検索バーに「ラスターをベクタ」と入れ一覧に出てくる「GDAL」→「ラスター変化」→「ラスターをベクタ化 (polygonize)」をダブルクリックする。下図の②、③のクリックのように操作し、LC_N35E139_6677_10m_polygon などのデータの関連性がわかる名前を付ける。

①ダブルクリック

②クリック

③クリック

warp と入れる

LC_N35E139_6677_10m_polygon などデータの関連性がわかる名前を付ける

一時ファイルに保存
ファイルに保存...

実行

完了

Finished となっていれば OK。
今回のサンプルサイズであれば 1 秒くらいで終了するが、広範囲になると数十分かかる場合もある。

```
QGIS version: 3.40.14-Bratislava
QGIS code revision: ebe1e1f32a
Qt version: 5.15.13
Pythonバージョン: 3.12.12
GDAL version: 3.12.1
GEOS version: 3.14.1-C-API-1.20.5
PROJ version: Rel. 9.7.1, December 1st, 2025
PDAL version: 2.9.0 (git-version: 898396)
アルゴリズムの開始時刻: 2026-02-16T20:55:19
アルゴリズム「ラスターをベクタ化 (polygonize)」を開始しています...
Input parameters:
{ 'BAND': 1, 'EIGHT_CONNECTEDNESS': False, 'EXTRA': '', 'FIELD': 'LC_CODE', 'INPUT': 'C:/緑被率/LC_N35E139_6677_10m_base.tif', 'OUTPUT': 'C:/緑被率/LC_N35E139_6677_10m_polygon.gpkg' }
GDALコマンド
gdal_polygonize.bat C:/緑被率/LC_N35E139_6677_10m_base.tif -b 1 -f
"GPKG" C:/緑被率/LC_N35E139_6677_10m_polygon.gpkg
LC_N35E139_6677_10m_polygon LC_CODE
GDALコマンド出力:
Creating output C:/緑被率/LC_N35E139_6677_10m_polygon.gpkg of format
GPKG.
0...10...20...30...40...50...60...70...80...90...100 - done.
プロセスが完了しました
Execution completed in 1.08 seconds
結果
OUTPUT: C:/緑被率/LC_N35E139_6677_10m_polygon.gpkg
出力レイヤの読み込み
Algorithm 「ラスターをベクタ化 (polygonize)」 finished
```

8.3 用途地域別の JAXA 土地被覆データの面積集計

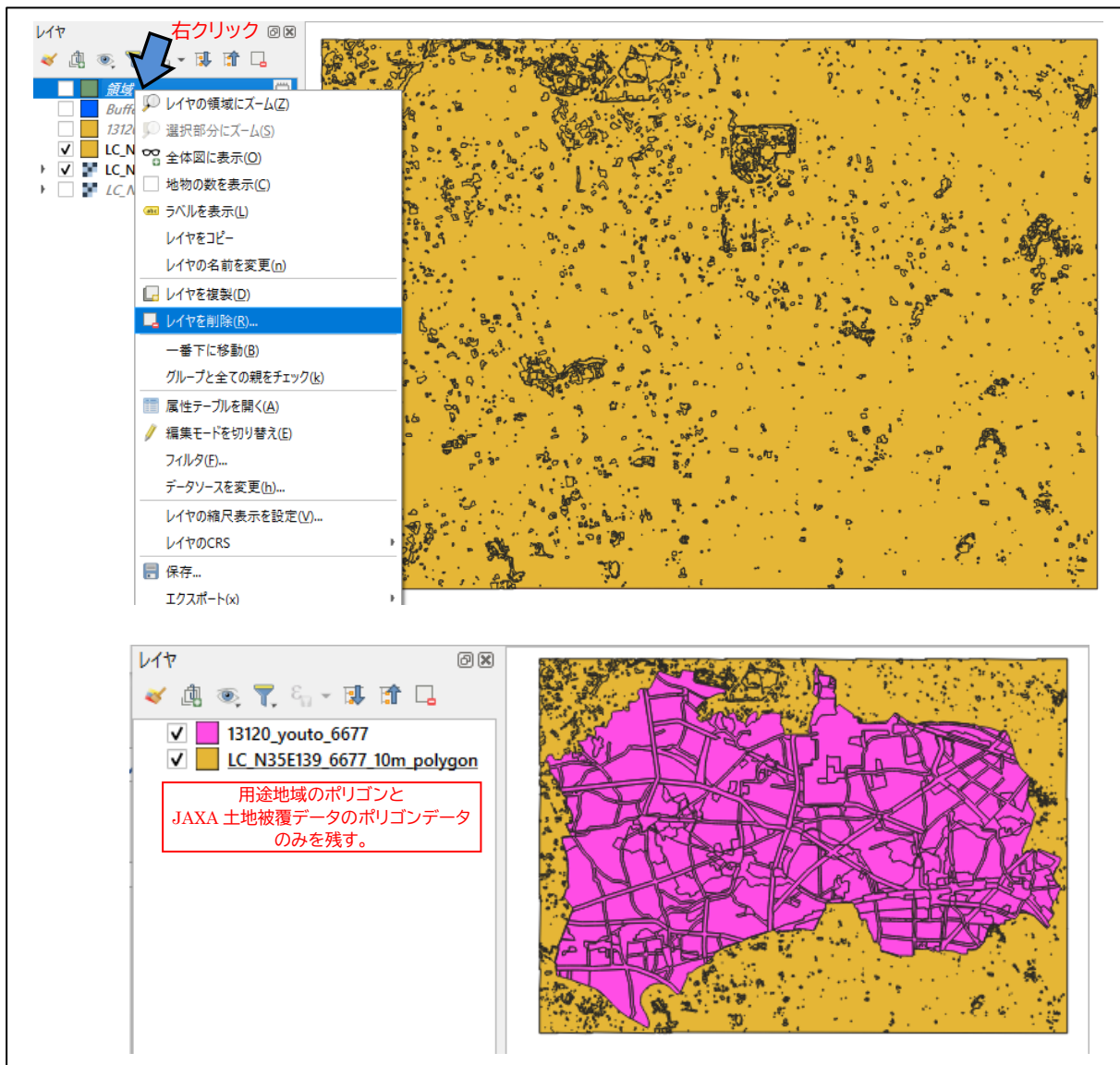
ここから、用途地域ごとの土地被覆データの面積を集計について解説する。

- (1) JAXA 土地被覆ラスタをポリゴンに変換する（ラスタをベクタ化）。
- (2) 用途地域ポリゴンと交差（Intersect）処理を行う。
- (3) フィールド計算機を用いて面積（area_m2）を計算する。

①初めに、不要なレイヤを削除して、必要なレイヤのみに整理しておくといよい。

レイヤの削除は、削除したいレイヤを右クリックし、レイヤの削除を選択することでできる。※レイヤを削除しても、元のファイル（shp、gpkg 等）は削除されないため、誤って削除しても再読み込みが可能である。

ここでは、用途地域（13120_youto_6677）と JAXA 土地被覆のポリゴンデータ（LC_N35E139_6677_10m_polygon）の2つを残して、その後は削除する。



②JAXA 土地被覆のポリゴンレイヤ (LC_N35E139_6677_10m_polygon) を選択しておき、プロセッシングツールボックスの検索ボックスに「交差」と入れ、一覧に出てくる「交差 (intersect)」をダブルクリックする。

「交差 (intersect)」ツールボックスの「入力レイヤ」に JAXA 土地被覆のポリゴンレイヤ (LC_N35E139_6677_10m_polygon) が入っていることを確認し、オーバーレイヤを用途地域レイヤ (13120_youto_6677) にする。

ボックス下方の「交差 (intersect)」の右端にある「...」をクリックして、GeoPackage に保存を選択して、交差 (intersect) したことがわかるファイル名を付ける。ここでは、「Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677.gpkg」とした。レイヤ名にも同じ名前をつけて OK を押す。実行をクリックすると、交差 (intersect) が実行され、intersect したレイヤが追加される。

①ダブルクリック

②クリック

③クリック

④クリック

⑤クリック

JAXA 土地被覆ポリゴンレイヤが選択されているか確認

用途地域レイヤを選択

デフォルト(選択なしで OK)

デフォルト(選択なしで OK)

Intersect したレイヤが追加される。

Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677.gpkg など交差(intersect)したことがわかるファイル名を付ける

レイヤ名: Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677

GeoPackageに保存

ファイル名(N): Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677

ファイルの種類(T): GeoPackageファイル (*.gpkg)

保存(S) キャンセル

③intersect したレイヤのみを表示すると下図のようになる。

intersect したレイヤを右クリックして「属性テーブルを開く」を選択すると、下の属性テーブルが表示される。

次に面積計算を行う。属性テーブルの「フィールド計算機を開く」をクリックし、フィールド計算機のツールボックスを開き、「新規フィールドを作成」をチェックした状態で、「出力する属性 (フィールド) の名前」に「area_m2」と入力し、フィールド型を「小数点付き数値 (real)」とする。ボックス中央付近にある検索ボックスに「area」と入れ、リストから\$area を選択しダブルクリックし、OK をクリックすると計算が開始され、属性テーブルの最後 (右端) に area_m2 のフィールドが追加される。この段階では、編集モードになっているので、左上端の「鉛筆タブ」をクリックし、編集終了ボックスで「保存」を押すと面積計算結果が保存される。

①右クリック

②「フィールド計算機を開く」をクリック

③クリック

④クリック

⑤クリック

JAXA 土地被覆のコード

用途地域名

用途地域コード

fid	LC_CODE	fid_2	YoutoName	YoutoCode	FAR	BCR	Pref	Citycode	Cityname	IN
1	1	6	工業地域	12 200	60		東京都	13120	練馬区	NULL
2	2	5	第 1 種低層住居...	1 60	30		東京都	13120	練馬区	NULL

新規フィールド作成を押す

\$area がはいる。

フィールド名に area_m2 と入れる
Real 精度

検索ボックスに「area」と入れる

\$area をダブルクリック

編集を終了

保存

8.4 EXCEL への出力

①intersectしたレイヤを右クリックして、「エクスポート」→「新規ファイルに地物を保存」を選択し、属性データをcsvファイルにエクスポートする。

「名前を付けてレイヤを保存」ツールボックスで、形式を「カンマで区切られた値(CSV)」、文字コードを「Shift_JIS」とし、ファイル名にレイヤ名と同じ名前を付けて「保存」をクリックする。ここでは、「Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677.csv」とした。

「保存されたファイルを地図に追加する」のチェックを外し、「OK」を押すと、csvファイルが保存される。

①右クリック

②クリック

③クリック

名前を付けてベクタレイヤを保存...

形式: カンマで区切られた値[CSV]

ファイル名: C:\緑被率\Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677.csv

レイヤ名:

CRS: EPSG:6677 - JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX

文字コード: Shift_JIS

選択地物のみ保存

▶ エクスポートするフィールドとエクスポートオプションを選択

レイヤメタデータを保持

▶ ジオメトリ

保存されたファイルを地図に追加する

OK キャンセル ヘルプ

チェックを外す

②エクスポートした csv ファイル (Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677.csv) をエクセルファイルに再保存する。ここでは、Intersect_LC_N35E139-13120_youto_6677.xlsx とした。また、F列の「FAR」からP列の「FNNumber」の列は不要なので、この段階で削除した方が作業しやすい。

下図のようにピボットテーブルのフィールドを配置して、クロス集計表を作成し、LC_CODE の数値を補正緑被率算定シートの入力シートにコピーすればデータ入力の完了である。この際、コピー元とコピー先の用途地域名を確認しながらコピーすること。

この列は削除しておいた方が作業が強いやすい

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1	fid	LC_CODE	fid_2	YoutoName	YoutoCode	FAR	BCR	Pref	Citycode	Cityname	INDate	FNDate	ValidType	Custodian	INNumber	FNNumber	area_m2
2	1	6	639	工業地域	12	200	60	東京都	13120	練馬区							1.874183297
3	2	5	3	第1種低層住居専用地域	1	60	30	東京都	13120	練馬区							31.53137697
4	3	13	3	第1種低層住居専用地域	1	60	30	東京都	13120	練馬区							300.0565711
5	4	6	3	第1種低層住居専用地域	1	60	30	東京都	13120	練馬区							100.0188589
6	5	11	3	第1種低層住居専用地域	1	60	30	東京都	13120	練馬区							100.0188601
7	6	13	3	第1種低層住居専用地域	1	60	30	東京都	13120	練馬区							100.0188612
8	7	6	2	第1種低層住居専用地域	1	60	30	東京都	13120	練馬区							4499.091819

ピボットテーブルを以下のように設定してクロス集計表を作成する。

	A	B	C	D	E
1	合計 / area_m2		LC_CODE		
2	YoutoCode	YoutoName	1	2	3
3	1	第1種低層住居専用地域	47672.84541	25272237.96	21264.44835
4	3	第1種中高層住居専用地域	1885.129282	7335519.659	482.9251346
5	4	第2種中高層住居専用地域		598.5981837	
6	5	第1種住居地域	151.4004418	5223392.317	2212.709246
7	6	第2種住居地域		490802.0088	
8	7	準住居地域		820530.357	931.487335
9	9	近隣商業地域	100.0194151	2958498.545	300.0571133
10	10	商業地域	600.1164761	928567.6179	
11	11	準工業地域	300.0580483	1330334.434	30
12	12	工業地域		27512.5831	
13	総計		50709.56907	443879.408	25191.62718

地域によって連番になっていないので、コピーする際は注意する。
この例では、
2. 第2種低層住居専用地域

この LC_CODE1~15 の数値を
補正緑被率算定シートの入力表シートにコピー

ピボットテーブルのフィールド

レポートに追加するフィールドを選択してください:

検索

fid

LC_CODE

fid_2

YoutoName

YoutoCode

area_m2

その他のテーブル...

次のボックス間でフィールドをドラッグしてください:

フィルター

行

列

LC_CODE

YoutoCode

YoutoName

Σ 値

合計 / area_m2

レイアウトの更新を保留する

更新

用途地域データのコード 8 に田園住居地域があるが新設された用途地域でデータがないため、補正緑被率算定シートには項目がないことに注意

コード	用途地域
1	第1種低層住居専用地域
2	第2種低層住居専用地域
3	第1種中高層住居専用地域
4	第2種中高層住居専用地域
5	第1種住居地域
6	第2種住居地域
7	準住居地域
8	田園住居地域
9	近隣商業地域
10	商業地域
11	準工業地域
12	工業地域
13	工業専用地域

補正緑被率算定シートの入力シート

各土地被覆の面積[m ²]	緑被地		非緑被地		
	1	2	3	4	5
用途地域分類	水域	人工 構造物	水田	畑	草地
第1種低層住居専用地域	47672.8454	25272237.9608	21264.4483	898592.1763	231302.9365
第2種低層住居専用地域					
第1種中高層住居専用地域	1885.1293	7335519.6588	482.9251	49292.3679	224085.0500
第2種中高層住居専用地域		598.5982			
第1種住居地域	151.4004	5223392.3167	2212.7092	47302.1353	25842.8656
第2種住居地域		490802.0088		800.1543	18660.1913
準住居地域		820530.3570	931.4873	3847.8308	1262.7216
近隣商業地域	100.0194	2958498.5446	300.0571	6847.7792	1399.8681
商業地域	600.1165	928567.6179			
準工業地域	300.0580	1330334.4344		3054.6324	18703.6216
工業地域		27512.5831			
工業専用地域					
(用途地域の指定のない区域)					

30